

1 人口減少及び高齢化の進展

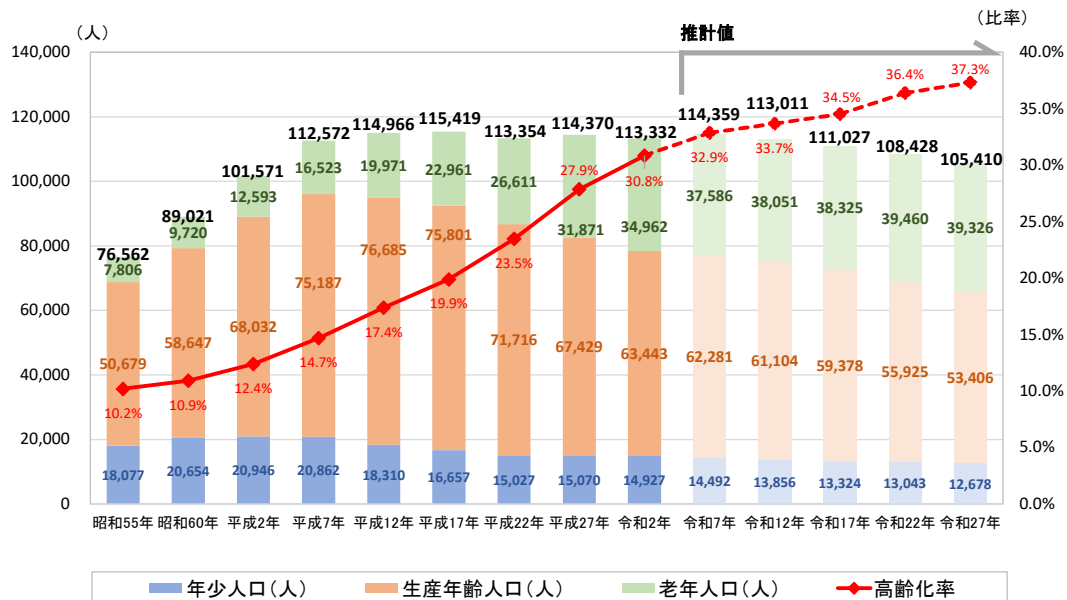
平成 17 年まで人口が増加し、それ以降は横ばいである。将来人口推計によると令和 7 年以降、人口減少することが予測されている。人口減少を防ぐための定住促進の一環として、移動手段の確保が重要となってくる。各地域で後期高齢化が進んでおり、特に吉和地域では 21.5%、宮島地域では 31.2%となっている。

住民アンケート調査結果で、市自主運行バスを利用する方のうち約半数が 75 歳以上の後期高齢者となっており、市内の後期高齢者のうち運転免許非保有者数は 10,986 人となっているため、高齢者に移動しやすい環境づくりが必要である。

廿日市市の将来人口推計

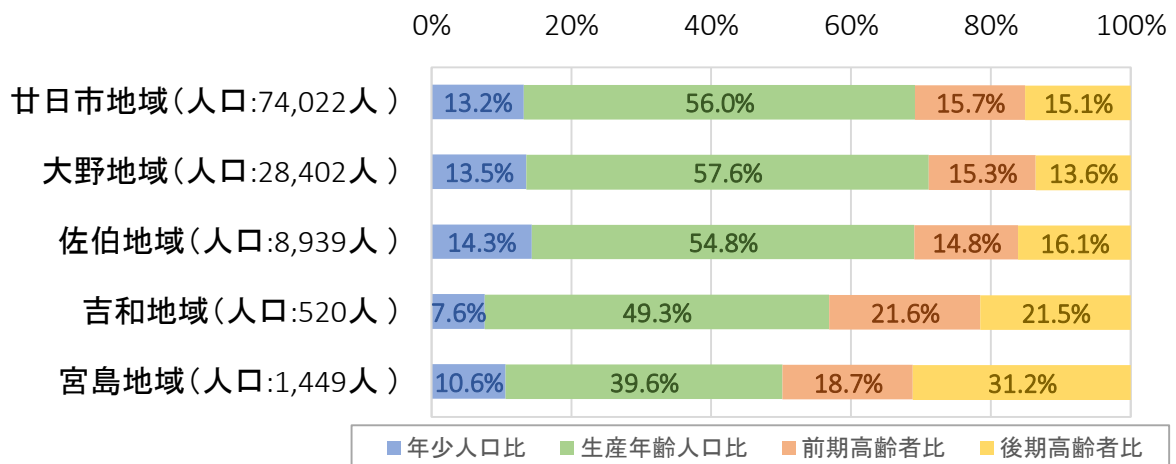
国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

※2025 年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータ(平成 30 年 3 月公表)に基づく推計値



地域別の高齢化率

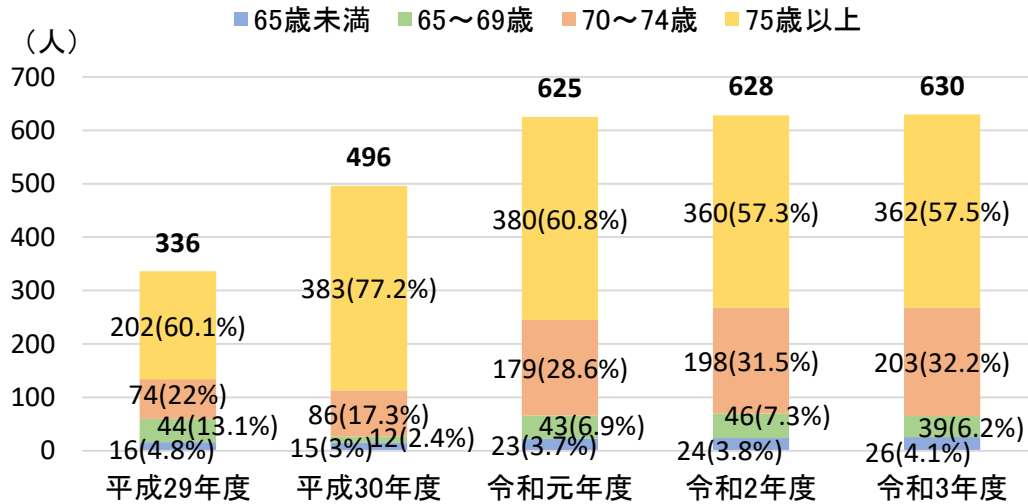
令和2年国勢調査



2 運転免許返納者数の増加

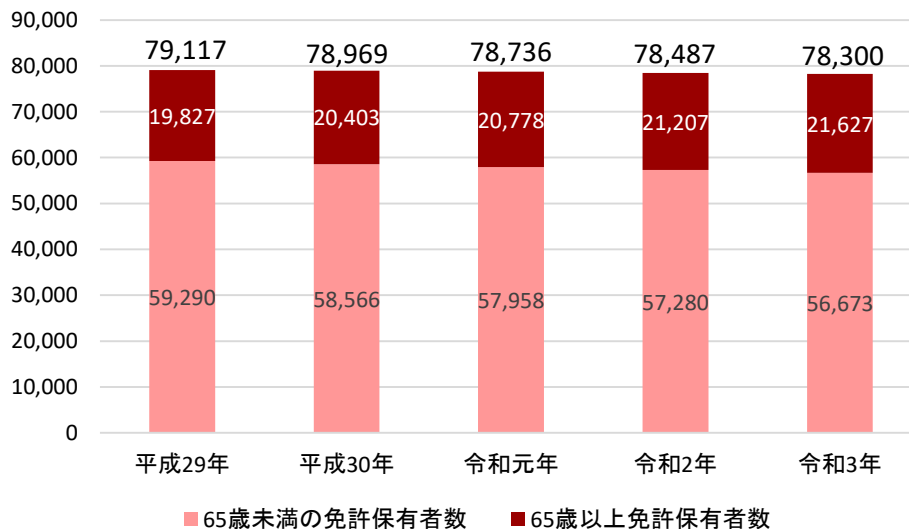
廿日市警察署管内の運転免許返納件数は令和元年まで増加傾向であったが、令和元年度以降は横ばいである。令和3年度では、全体で630件となっており、うち65歳以上が95%を占めている。

運転免許返納者数の推移



資料: 廿日市警察所から提供頂いたデータで事務局が作成

運転免許保有者数

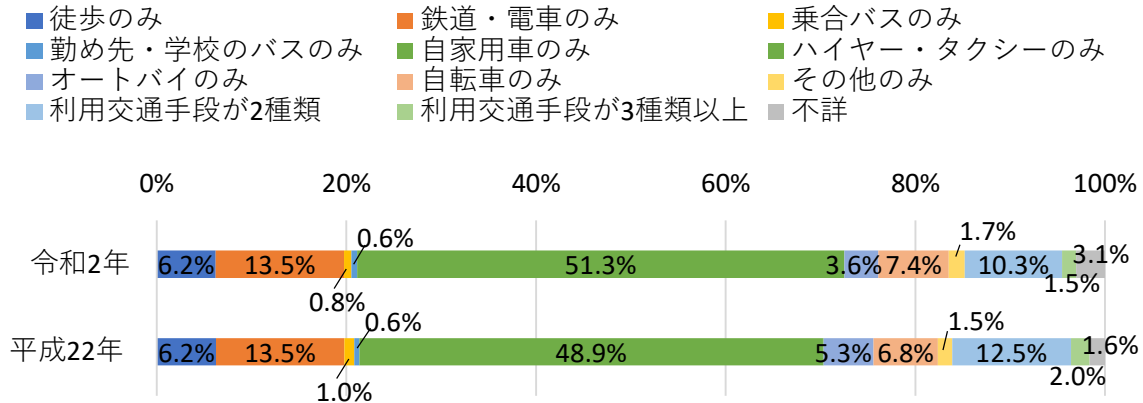


3 通勤・通学者の利用交通手段

平成22年から令和2年までの間で、自家用車や自転車の割合が増加し、乗合バスの割合は減少している。

廿日市市に常住する通勤・通学者の利用交通手段

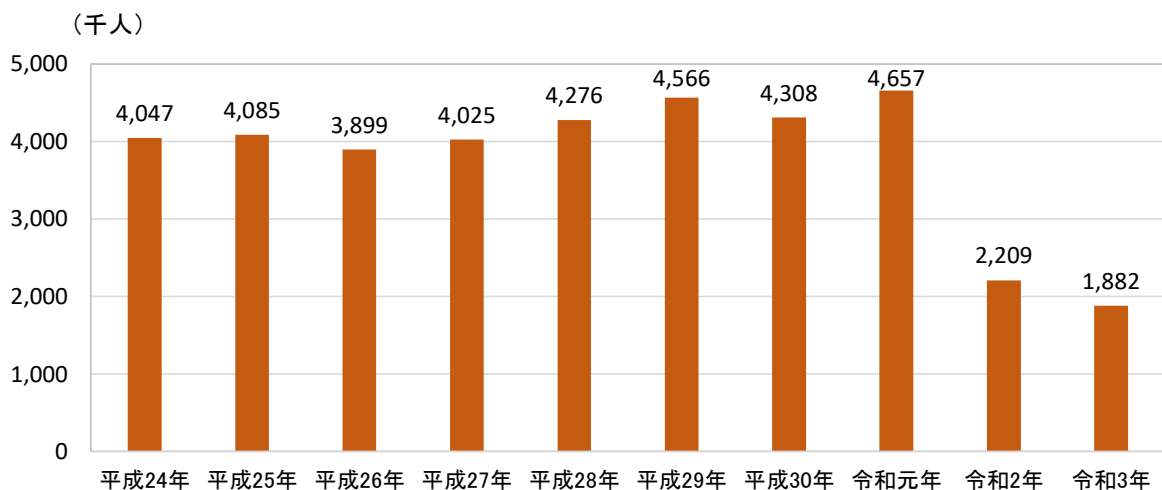
資料：平成22年国勢調査、令和2年国勢調査



4 宮島来島者数の減少

近年、来島者数は増加傾向にあり、令和元年にピークを迎えた。令和2年以降は新型コロナウイルスの影響により、令和元年と比較すると令和2年以降の来島者数は半数以下となっている。特に、外国人の入国規制や国内の団体旅行の減少が来島者数減少の要因となっている。

宮島の来島者数の推移



5 まちづくりの状況

本市では今後の人口減少と少子高齢化の更なる進行に対応するため、生活に必要な機能を適正に配置しながら公共交通ネットワークと連動した持続可能なまちづくりを目指し、「廿日市市拠点の形成による持続可能なまちづくり計画（以下、「立地適正化計画」という。）」を平成31年3月に策定した。立地適正化計画等に基づく集約型都市構造（コンパクトシティ）の実現に向け、さまざまな拠点整備が進められているなか、各拠点間や拠点と交通結節点を結ぶ公共交通ネットワークの形成が必要不可欠である。

コンパクトシティプラスネットワーク

資料：国土交通省ホームページ

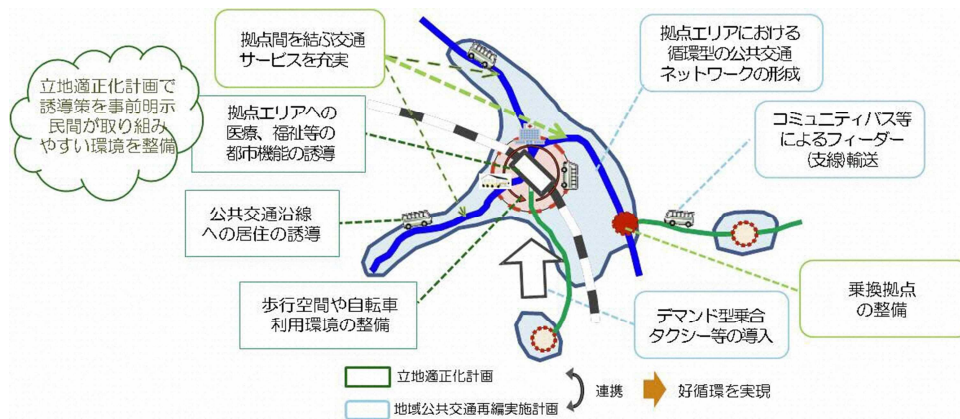


表 1 まちづくりの状況

事業名	事業概要
廿日市市地域医療拠点等整備事業	廿日市地域の J A 広島総合病院の周辺において、医療・保健・福祉が連携・協力し、地域医療拠点の更なるサービスの向上と、良好な居住市街地の形成促進を図るため、令和4年4月に供用開始された官民複合施設に続き、令和6年度の供用開始に向け病院新棟を整備している。
新機能都市開発事業	廿日市地域の山陽自動車道宮島 S A 南側付近において、新都市活力創出拠点の形成のため、令和8年度中の造成工事完成に向け、産業団地と観光・交流拠点などの整備を進めている。
筏津地区公共施設再編事業	大野地域の筏津地区において、現在の公共施設を再編し、子育て、健康づくり、交流などの機能を備えた複合施設を、令和5年3月の供用開始に向け整備している。
宮島口地区まちづくり整備計画	大野地域の宮島口地区の厳島港約1ヘクタールを埋め立て、令和2年2月に供用開始された旅客ターミナルや大栈橋等、港湾施設などに続き、令和8年度末の完成に向け、緑地や外構の整備、アクセスの向上を図るため周辺道路を整備している。
吉和支所複合施設整備事業	暮らし続けられる吉和地域の実現に向け、住民と来訪者とのふれあいと交流促進の拠点として、吉和支所、吉和ふれあい交流センター及び吉和歴史民俗資料館から構成される複合施設を、令和5年度の供用開始に向け整備している。